

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500228		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト流山		
所在地	千葉県流山市名都借1068-2 2F		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成31年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「こころ・からだ・環境」に寄り添う。</p> <p>ソラストのスタッフは、一人ひとりの個性を尊重すると共に、その日そのときの状態に応じた最適なサポートのあり方を見極めます。大事なものは、ご本人の生きる力を信じ、ご自身で「何ができるか」という視点。できたときの喜びを共有することがスタッフの一番の楽しみです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、「高齢者施設が多数ある中からこのホームを選んで頂いた」という意識に基づき、企業理念とは別に職員全員で考えた「その人がその人らしく」というホーム理念を共有し、利用者の役割を大切にしたい支援に努めている。ホームの理念はケアに対する職員の考え方を話し合う際にも活用し、振り返っている。利用者の介護度が上がる中、残存機能を最大限に引き出せるよう、食事の際には野菜を切ったり盛り付けをする、テーブルを拭く、ゴミ捨てなどの役割を持ち、利用者職員が一緒に生活を形成できるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念については、誰しもが目で見確認できるように休憩室に掲示している。日々の業務の中で、入居者様自身のその人らしさを一番に考え業務にあたっている。	企業理念とは別に職員全員で考えた「その人がその人らしく」というホームの理念が共有されている。利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、残存機能を引き出し、施設での役割を見出すことで、利用者の生きがいにつなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は入居者様等の入れ替わり等がありままならないが、昨年度は地域主催のクリーン作成に職員と入居者様と参加した。地域の方との交流を目的に地場の野菜等を購入している。	地元の野菜を買いに行き食材としている。また、地域のボランティアも多く受け入れており、傾聴、洗濯、レクリエーションなどに協力をしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域支援推進員に管理者がなっており、今後地域向けの活動を実施していく予定となっている。平成31年3月豊四季団地にて。前年度は流山市GH連絡会として、市民祭りにも参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頻度としては少ないが、運営推進会議を開催している。実際に会議内で出た、助言等は前向きに検討し即実行するように心がけている。	運営推進会議には、市の職員や民生委員、利用者家族などが出席しており、家族の出席率が高い。会議では活動状況報告をし、要望、助言をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上での問題点や不明点は常に電話や訪問し相談している。事故や苦情があった際もすぐに相談し報告書を提出している。協力関係の構築はできており安心して施設運営ができています。	管理者が認知症地域支援推進員でもあることから、市とはグループホーム連絡会を通して、「市民まつり」や「認知症を知る月間」などの催しものへの参加など積極的に協力関係を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回の研修の実施。身体拘束について誰しもがしてはいけない事、万が一なくてはいけない状況や対応方法は理解している。玄関の施錠については流山市に確認し施錠しているが、ご入居者様が外に出たいとお話しされた際はすぐに出れるようにしている。	身体拘束適正化委員会を設置しており、年2回の研修を実施している。転倒・転落リスクがある場合は、家族にリスクの説明を行いながら、適宜介護計画の見直しを行い、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に所内研修の実施をしている。虐待等が疑われる際には速やかに関係各所への連絡を速やかに行うように職員等に話している。怖がらず即行動を各自が意識している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度についての研修(流山市主催)に参加はしている。実際に活用する機会は今はないが、そのようなケースが発生した際は慎重に対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な実調を行い、双方が納得のもと契約を実施している。重要事項説明書を用い丁寧な説明を心がけている。解約時には契約時よりもより慎重に対応している。改定時等は変更契約書を作成し説明を行いご納得頂き署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が常時来訪される環境にあるため職員は近況報告をし、ご家族の意見も聞いている。聞いた内容は全職員で共有し、対応すべき事項についてはケアプラン等に反映する。外部者へ表すことは主に運営推進会議で実施している。	利用者からは日々の生活の中で、家族からは面会時に意見や要望を引き出すよう努めている。また、運営推進会議のお知らせには、家族からの意見・要望の記入欄を設けるなどの配慮をしている。スリッパに対する意見があり、全て交換した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のサービス会議実施時に、入居者様のカンファレンスを実施している。その際に各職員からの意見ももらっている。また、個別面談等も定期的にも実施し職員参加型・職員主導による運営をしている。	月に1回行われるサービス会議において、利用者のカンファレンスとホームの運営面についての話し合いをしている。話し合われた内容によっては運営会社に相談し、解決につなげるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ・ソラストポイント制度等を設けているためスキルアップ出来る環境は整っている。定期的な異動や新たな役割を与えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社(キャリアセンター)主催で各種研修等行っている。又新人職員にはエルダー(相談役)制度を設けている。事業所では毎月職員で構成された研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	流山市GH連絡会へ参加し、積極的に他のGH管理者と意見交換やイベント等を行っている。同法人内の事業所との交換研修等も定期的に行いサービスの質の担保を心がけている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者に対しては、特に気を配って対応している。ご本人をはじめ、ご家族とケアマネから出来るだけ多くの情報をいただくようにしている。ご本人が安心して生活していただけるよう、表情や言動を注意深く観察しながら職員全員が信頼関係を構築できる体制づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス初期段階では、ご本人やご家族との信頼関係構築のために、密に情報交換を行うようにしている。特にホーム側から積極的に生活の様子を報告するようしており、家族が抱えている不安感や入居に伴う葛藤など解消できるように良い関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族を交えた実地調査を行い、ご本人がソラストの環境になじみ、安心して生活が送れるかを見極め、状況によっては、より適したサービスを紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという共同生活の場であることを職員全員が認識し、家族の一員であるような暖かく安心できる関係作りの構築を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来訪しやすい環境作りを意識している。気軽に外出したり、居室で面会することができ、離れて生活していても家族との絆を感じることができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の状態に合わせて、ご家族の協力を得て、以前から行っていた趣味活動や、外出支援を通して住み慣れた環境での生活の継続に努めている。	入居前に自宅に来ていたボランティアが訪問してくれたり、従来のかかりつけ医への受診など、利用者にとって大切な関係性が維持できるよう努めている。外出先で知り合いが声を掛けてくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルの配置や雰囲気作りに「共同生活の場」であるということ意識している。併設のデイサービスや、小規模多機能との合同でのレクリエーションやイベントの機会を設け実施している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族との関係を継続できるように、連絡を取ったりしている。入所した方の様子を見に行くことも時折ある。また、相談等があった際には丁寧な対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とご家族の希望、これまでの生活歴に合わせて家で過していたときと同じような生活ができる限り継続出来るような支援に努めている。	職員は利用者とゆっくり過ごす時間の中で、一人ひとりの思いを把握するように努めている。管理者は「世話をする感覚ではなく、日々の出来事の中から利用者の思いを見出すこと」を大切にするように職員に伝えており、日々の変化や反応を職員同士が共有し、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族から、これまでの生活歴を出来るだけ詳しくお聞きし、今までと変わらず生活が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の細かい変化を、介護記録に記載し職員間で共有している。必要に応じてケアカンファレンスを開催し、現状の把握と変化への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月に一回のサービス会議時にカンファレンスを行っている。また必要に応じて随時カンファレンスを行い、ご家族の来所時には現状を報告し、希望を確認した上で現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	月に1回行われるサービス会議において利用者全員のカンファレンスを行っている。家族にも参加の声かけをしており、参加できない家族には前もって希望や意向を確認し、介護計画を作成している。更新は6ヶ月を目安としており、必要に応じて随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも、ケア記録に記録し、職員全員で情報を共有している。常に全職員で、状態変化の把握ができる環境づくりを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行に伴い表出する拘縮の進行を防止するために、訪問マッサージを利用するなどその時の状況に応じてサービスを提供できるよう努めている。また福祉用具の業者とも密に連携を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調の良い日には外出・外食に出掛ける方、高齢で認知症という疾患を抱えていても馴染みのある地域との繋がりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連携を取り24時間体制で相談できる体制が出来ている。近隣にクリニックを提携医療機関としており、往診以外にも外来でレントゲン等ができる対応となっている。	入居時に、これまでのかかりつけ医に継続して受診するかホーム提携医に変更するかを選択してもらっている。提携医とは24時間相談できる体制ができている。歯科医の訪問は、希望者に対し月1回行われている。家族には利用者の体調や様子を毎月報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール対応の自社Nsがあり、週に複数回、自社Nsが健康観察と健康相談を行っている。正確な情報をもとに受診が受けられるような体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、出来る限り早く退院できるよう家族と病院担当者と密に連携をとって情報交換に努めている。必要に応じて家族を交えた担当者会議に職員が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけの医療機関と密に連携を取っている。ターミナルケアの経験豊富な看護職員がおり、介護職員に情報共有や指示をし、落ちついて最期に向き合いながら取り組むことが出来ている。ご本人はもちろん、ご家族の揺れ動く心情等のフォローに特に気を配っている。	入居時にホームでの対応を説明し同意を得ており、入居後も状況に応じて話し合っている。看取りについては、看護師とは24時間オンコール体制になっており、職員への指導やアドバイスももらっている。家族の心情に寄り添い、看護師、職員、医師が連携をとりながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修で、リスクマネジメント担当より緊急時の応急手当・初期対応の訓練を行っている。緊急時のマニュアルを掲示することで、有事の際の体制作りは整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で日中帯、夜間帯どちらも想定した訓練を行っており、全職員が有事の際の対応を身につけることができるように努めている。地域柄、有事の際の地域との協力体制に関しては充分にとれていなかったが、今後は隣接する福祉施設との連携を検討している。	非常災害発生時の対応マニュアルを作成している。今年度は消防署と連携した総合火災訓練を行った。夜間は、管理者及び運営会社ディレクターが駆けつける体制があり、外部の警備会社と契約をしている。非常時に1週間分の水や粥等を備蓄している。	今後は地域住民とのさらなる連携を図り、災害時の協力体制を築いていくことも期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な接遇面での研修や指導の実施している。家庭的なあたたかい雰囲気でありながら、接遇の徹底を目指している。ご利用者様の人格を常に尊重することを心がけている。	ホームの理念に「その人がその人らしく」を掲げ、利用者一人ひとりの個性を大切にすることに努めている。接遇面にも力を入れており、入社時や入社後、定期的に接遇の研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対象者の「生活」を、職員や施設の都合で決めるのではなく常に入居者様がどのようにしたいのかを決めて頂けるような支援を行っている。その人らしさを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の趣味嗜好等を把握し、無理強いするのではなく各々のペースに沿って、穏やかに安心して過ごしていただけるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはいつもと違う装いをするなどの配慮をしている。メリハリのある生活をするために外出は大切だと感じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を考慮しながら、嫌いな食材は代替して提供するなどの配慮をしている。ミキサー食の方には色合いに配慮した盛り付けを行い、視覚でも食欲を刺激できるような支援を行っている。能力のある方にはテーブル拭きや配膳・片付けを手伝っていただいている。	毎月バイキングを取り入れたり、外食に出かける、レクリエーションで料理をする、誕生日会など、利用者が食事を楽しめるように工夫している。利用者は野菜を切ったり、盛り付けやテーブル拭きなど、できることで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携を図りながら、十分な食事が摂取できない方には栄養補助食を提供したりと、栄養や水分量が確保できるように支援している。歯科医とも連携を密に図り、残存機能に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ自分の歯(義歯含む)で食事が出来るように支援している。食事後には口腔ケアを確実に実施し、誤嚥性肺炎の予防にも努めている。適宜、歯科医師による診察や指導を受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の、排泄パターンを把握し、できる限りご自分でトイレで排泄できるように支援している。夜間についてはポータブルトイレを利用することもある。	水分摂取量とあわせて一人ひとりの排泄状況を確認して、個々に合わせてトイレ誘導やおむつ交換を行っている。嫌だと言う場合には、違う職員が声をかけたり、どうしたら受け入れてくれたかを職員同士で共有するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を観察し、下剤をコントロールし、排便コントロールを行っている。そのほかには、毎日の体操や散歩などの運動の励行、食事量や水分量が充分かどうかも気を配っている。看護職員による定期的な観察も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限りご本人様の希望に合わせて入浴支援を行えるように努めてはいる。また、必要に応じ2人介助で入浴される方もいる。すべての入居者様の希望通りとはなっていないが、出来るだけ入浴の回数を増やし対応している。介護度が重くなっても安楽に入浴できるようシャワーキャリーを導入し対応している。	入浴は週2、3回支援している。重度化に備えてシャワーキャリーを導入したが現在1名が使用している。場合によっては二人介助でゆっくり湯船に浸かってもらい、入浴を楽しんでもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と密に連携をとり、安心して眠れるように支援している。1年を通して、リビングや居室の温度と湿度に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があった際には、申し送りノートに記入し、職員への情報共有に努めている。薬の変更後は様子を記録に細かく残しどのような変化があったかを医師に報告できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品はご家族が用意してくださっている。買い物レクリエーション等も今後は実施予定。ご本人が楽しめるレクやカラオケ、タオルたたみ等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力し、可能な限り外出できるように努めている。入居者様全員が参加できるように外出レクを計画し実施している。今年度は外食レクが多い。今後は家族も参加しての外出も出来たら良いと考えている。	毎月の外食など、車イス使用の利用者も含めてほぼ全員が一緒に外出している。初詣やお花見、紅葉狩りなどの季節行事や、近所の散歩や買い物等、体調を見ながら出かけている。	利用者の身体状況が変化中、個々に合わせた日常的な外出の工夫が必要と考えられ、今後の取り組みが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを未然に防ぐため、金銭の所持に関する支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りができるような体制はとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、季節感のある装飾などを行い、居心地の良い環境作りに努めている。	リビングは明るく、書初めや絵など利用者の作品が季節に合わせて飾られている。また、キッチンとリビングはカウンターでつながっており、食事をつくる匂いなどもして家庭を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中にソファを設置し、気分に合わせて思い思いに過ごすことができるように努めている。大きめのTVも設置し、できるだけ共有スペースで過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具などを必要に応じてお持ちいただいている。居室環境の整頓にも努めている。ご本人が落ち着いて居室で過ごせる環境づくりに制限は特に設けていない。	居室にはテレビやドレッサーなど、馴染みのものを持って来ており、それぞれが居心地よく過ごせるように部屋をつくっている。必要に応じてカーペットや手すりを設置するなど安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路の動線上に障害物等を置かないように徹底し安全に自立して過ごして頂けるように支援している。		

【評価機関】